

企業名： 中国電力

レポート名： 統合報告書 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

本資料の p.8 では、価値創造プロセスに関する説明がなされており、中国電力グループの経営ビジョンとして「エネルギーチェンジ 2030」が掲げられている。これは、2030 年を一つの区切りとしたビジョンであり、2030 年に達成したい目標を具体的にリストアップし、そこまでの過程とそれ以降のカーボンニュートラルへの挑戦を示している。2030 年に達成したい財務的な目標と非財務的な目標がどちらも詳細に説明されているのが印象的であった。本ビジョンを達成するための取り組み方針としてはエネルギー事業を中心とした既存事業の強化・進化や、さらなる成長に向けた新たな事業への挑戦、多様な人材が活躍できるさらなる環境づくりが挙げられている。

また、本資料の p.16 で紹介されているように、2021 年の 2 月に当社グループが発表した「2050 年カーボンニュートラル」への挑戦についても電力会社として真摯に取り組んでいく姿勢を示している。

これらの情報が視覚的にも分かりやすく、また資料の序盤で丁寧に説明されていることから、当社が目指している将来の姿は明確に理解できた。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

本資料の p.40 からは、競争力強化に向けた取り組みとして特に知財・無形資産との向き合い方が説明されている。知財・無形資産の価値が増していく今後、当社は研究・開発戦略に力を入れていこうと考えており、前述の経営ビジョンを達成するために 3 つのイノベーションを行うことで早期の実用化、ビジネス化を目指している。具体的には、当社は 2000 年前後の電力自由化の進展を契機に電気事業の効率化をはじめとする知財戦略を進めてきており、成果が蓄積されてきていることから競争力の強さがうかがえる。

また、p.29 では中国地方におけるエネルギー販売事業の説明があり、地方の事情に精通していることを生かし、顧客のニーズに応える料金メニュー、サービスの拡充に取り組んでいることが分かる。

さらに、p.42 では特許の価値の定量的評価がなされており、これによると当社は独自の技術、創意工夫によって 2021 年度は 9 億円の金額効果を出している。

以上のことより、当社のどのような点が優れていて他社に競争優位性を持つのか、ま

た当社なくなってしまうと社会にどのような影響が及ぶのかがしっかりと説明されているため、競争優位性が理解できた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

本資料 p.42 の、「成長を支える新たな価値創造の源泉として」の項目を見ると、当社では知的資産の知財化に向けた取り組みが功を奏し、2017 年以降は毎年約 100 人の新規発明者が誕生していることが分かる。人的資本の充実は、既存の競争優位性の持続に大きく寄与することは容易に考察できる。

また、当社の特許保有件数についてはエネルギー業界トップを維持しており、これが、知的資産がますます重要視されていく時代で競争優位性の持続に有効であることは明らかである。

これらのことから、当社の競争優位性に持続性は十分あると判断する。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

当社グループは、グループ経営ビジョンにおいて「すべての人が持ち場で輝く」をミッションに掲げているとともに、「多様な人材が活躍できるさらなる環境づくり」を非財務の目標として設定している。ここから分かるように、当社は社員の成長意欲、能力、努力をきめ細かに汲み取るための取り組みを様々考えており、本資料の p.68 によると、社員自らが年度首に自律的・主体的に設定した成長目標を参考にして上長が育成及び指導を行う「OJT (On the Job Training)」と、全社員を対象にして入社時の新人社員教育に始まりそれぞれの階層に狙いを定めて専門的な業務教育を実施する「Off-JT(Off the Job Training)」を効果的に組み合わせた計画的育成が図られている。

これらより、当社は人材育成に十分注力していることがうかがえるため、この会社で自身の人的資本の価値向上は達成できるだろう。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

本資料は、視覚的な効果も活用した分かりやすい説明がなされており、また内容も詳細で多岐にわたり、当社の特に非財務的な面での価値がよく分かるものになっていた。丁寧な説明は、私のような初学者にとってはとてもありがたく、当社についての知識がほとんどなくてもこれを読めば大抵のことは理解できると感じた。

また、p.87 では事業のリスクについての説明がされており、よい面だけではなくリス

クのある決定についてもしっかりと触れ、併せて対策や事情説明を行っていたことも信頼できる良い点だったと思う。

改善余地があるとすれば、少し資料全体の構成が説明不足な気がした。個々の記事の説明や見やすさは問題なかったが、唐突な話題の転換などがあってついていきづらかった面も見られたため、そこは改良できる点かと考える。

参考文献

1. 中国電力 「統合報告書 2022」

https://www.energia.co.jp/ir/irzaimu/pdf/tougou/tougou_01.pdf